

第6回「地域フォーラム」概要  
 開催テーマ テーマ1「健康・医療・介護」  
 テーマ2「教育」  
 日時 平成28年2月21日(日)14時00分～16時30分  
 会場 川上総合センター やまぶきホール

【テーマ1】「健康・医療・介護」

<p>挨拶・ 資料説明</p>	<p>荒井奈良県知事        地域フォーラム開催の挨拶        資料説明        ・奈良県の人口推移        ・市町別高齢者人口比率の推移        ・健康づくりへの取組        ・奈良県の健康寿命        ・生活支援スマホの開発        ・地域医療構想の策定        ・過疎地域医療への対応        ・地域包括ケアシステムの構築 など</p>
<p>取組説明 ①</p>	<p>北岡吉野町長        吉野町の現状と行政の取り組みについて説明        ・健康づくり、介護予防サポーターの養成        ・笑いヨガの実施        ・町職員の地域担当職員制度の導入 など</p>
<p>取組説明 ②</p>	<p>岡下大淀町長        大淀町の現状と行政の取り組みについて説明        ・「無煙のまち おおよど」をテーマとした禁煙の取組の実施        ・官学連携・多職種(専門職)連携による介護予防の実施        ・住民主体の介護予防リーダーの養成        ・「誤嚥にならん！体操」の実施        ・「よどり音頭」に理学療法士が運動要素を取り入れた新たな体操の開発        ・認知症カフェの実施 など</p>
<p>取組説明 ③</p>	<p>南下北山村長        下北山村の現状と行政の取り組みについて説明        ・受診率向上のための各種検診の土日開催、早朝開催、1日4回送迎の実施        ・乳がん検診、子宮がん検診、大腸がん検診の無料実施        ・理学療法士を招いてのリハビリ教室、臨床心理士2名を招いて心の健康づくり相談室の実施 など</p>
<p>取組説明 ④</p>	<p>福西上北山村長        上北山村の現状と行政の取り組みについて説明        ・高齢者世代を対象とした、生活習慣病予防、介護予防のためのヨガ教室の実施        ・若い世代を対象とした、生活習慣病予防のためのエクササイズ教室の実施        ・保健師や歯科衛生士などによる健康相談の実施        ・村内の診療所の診察時間に合わせたコミュニティバスの運行        ・理学療法士、保健師、看護師等が行う、介護予防のための高齢者筋力向上トレーニングの実施 など</p>
<p>取組説明 ⑤</p>	<p>栗山川上村長        川上村の現状と行政の取り組みについて説明        ・健康で元気に暮らしとコミュニティづくりの推進        ・医学療養士、健康運動指導員による健康づくり教室「らくらく元気塾」の実施 など</p>

取組説明 ⑥	水本東吉野村長
	東吉野村の現状と行政の取り組みについて説明 <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康づくりと食育を一体的に推進</li> <li>・五條病院によるへき地医療(眼科・耳鼻科)、吉野郡歯科医師会による訪問歯科診療の実施</li> <li>・認知症についての地域支援講座の開催</li> <li>・東吉野テレビでの放映等による「いきいきふるふる体操」の普及啓発の実施      など</li> </ul>

取組等 説明	奈良県立五條病院 松本院長
	<p>テーマ「健康・医療・介護」について取り組み等説明</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・南和医療圏の医療状況、南和医療圏住民の入院受療動向</li> <li>・南和地域公立病院新体制、南和地域医療提供体制(平成28年4月～)</li> <li>・南奈良総合医療センターの診療科構成</li> <li>・南奈良総合医療センターの医療機能(重点的に取り組む分野) (①救急医療②災害時における医療③へき地医療④専門医療)</li> <li>・南奈良総合医療センター、吉野病院、五條病院の医療機能(重点的に取り組む分野) (①高齢者、在宅医療)</li> <li>・地域連携と在宅医療支援 (①入院機能②退院機能③訪問診療④情報ネットワーク⑤情報発信・健康啓発活動) など</li> </ul>

意見①	<p>荒井奈良県知事</p> <p>例えば上北山村は健康寿命が、女性1位で男性6位でございますが、地域の生活習慣がよいのではないかと思います。上北山村は何か健康ライフのコツがあるのではないかと、それを見つけて普及するのが我々行政の立場の大きな仕事だと思います。</p> <p>この地域は大変いい成績で、例えば川上村は男性が1位で女性が7位でございます。このように男性、女性ともに成績がいい村と、下北山村のように女性はベスト6位ですが男性がワースト6位と、男女の差がある村があるのはどうしてかなと思ったりします。不思議なことで、この原因がわかれば下北山村の女性の健康寿命を延ばす手段を考えようということになるわけでございますが、県レベルで比較いたしますと、長野県が全国ですと1位でございます。奈良県は、男性が4位、女性が33位でございますが、長野県と奈良県の生活習慣で何が違うのかずっと調べてきておりますが、一番目立って違うのは野菜の摂取量でございます。</p> <p>国民健康・栄養調査というものがあります。野菜の1人当たり摂取量というランキングがありまして、長野県がずっと1位です。奈良県の女性は46位で、奈良県の野菜は大変おいしいと思いますが、どういふわけか奈良県の女性は野菜をあまり食べておられないという統計が出ております。野菜の摂取は血管を痛めない、高血圧を予防する、ナトリウムを体外へ流し出すなどの効果があると言われております。高齢者になられると野菜を摂取するということはとても大事であり、奈良県のランクに少し影響しているのかなと思われるところがございます。これを改善して試してみようよということを一生涯懸命やるというのも一つだと思います。</p> <p>もう一つ、奈良が低くて気にしなければいけないと思いますのは、がん検診受診率が低いことです。長野県はずっと高いです。若い頃からがん検診を受診していると早世がんを防ぐことができますし、がん検診を受けられる人は健康ライフに気をつけておられるということと連動しているように思います。検診を受けに行きますと色々なアドバイスがありますので、それを実行されるなど健康に関心を持つと、他のがん検診、特定健診にも向かわれるということになると思います。奈良県のがん検診受診率、特定健診受診率は大変低いので、市町村長に現状をデータで示しますと、よし頑張るぞと言ってぐんぐんと特定健診の受診率が伸びた市もございます。御所市がそうでございます。もう一つ長野県と比較してわかるのは、働く高齢者が多い地域は割と長寿命の傾向があり、奈良県でも働く高齢者が多い地域は長寿命の傾向があるように思います。</p> <p>それと、松本先生がおっしゃいました南奈良総合医療センターができますと、色々な楽しみがございます。元々医師は少ないですが、今後ものすごく医師が増えて訪問医療に医師がどんどん行けるというわけではないと思いますので、これからは訪問看護は看護師が行かれる、かかりつけ薬剤師、それから歯科医師が行かれるというようなことが考えられます。また、在宅での看取りとなる終末期のケア、終末看護、特定看護師の養成などができれば、この地域はとても健康な終末までのライフが確立するようになると思います。</p> <p>食事、運動、社会活動の3つをこの地域の生活習慣として、他の地域にこの地域のまねをしなさいと言えるようになってきているように思います。これからも頑張っていきたいと思っております。</p>
-----	--

意見②	<p>北岡吉野町長</p> <p>いわゆる習慣というのはやはり周りの生き方そのものなので、地域でどういう見守りをしているか、地域で私も検診に行ったのであなたも行きなさいと言うような、そんなムードをつくるのが大事だと思います。長野県も私の子供の頃は確か塩分摂取量が多く、脳溢血が多いというような感じだったので、それを気にして一生懸命保健師さんが指導されたというような話も聞いております。そのように一生懸命指導して納得していただくという地道な活動が結果に結びつくのではないかなと思います。そういう意味で、その地域に入り込んで地域を指導していくというのが大事かなと思います。</p> <p>特定健診もなかなか受診率上がらず、担当も苦勞して色々な啓蒙をしながら、ポイント制を作るなどしてやっと30%台に持ってきましたので、そういう地道な努力というものを追求すべきかなと私は思っております。</p>
-----	--

意見③	岡下大淀町長
<p>北岡吉野町長もおっしゃいましたが、長野県は昔はワースト1位でした。野沢菜という大変塩分の高いものを多量に摂取しており、私がスキーに行ってもそれがお茶受けに出てくるというくらいでした。それをやめて塩分をすごく減らしたことが、今1位になってる原因というふうに私は記憶しております。</p> <p>大淀町も数年前に検診率がワースト1位であると、荒井知事に3回言われました。それをきっかけに非常に頑張って、最近は少し上がってきました。これまで大淀町では人間ドックの予算付けをしていたのですが、今度大淀病院がなくなるということでそれをやめました。その代わりに検診に対する補助を増やしましたので、少しは上がっていくかなと思っています。請う御期待でございます。</p> <p>それ以外に、野菜を摂取すると野菜が塩分をとってくれて、非常に血管、循環器系にいいという話がありますが、野菜を食べるのに歯の悪い人もいます。ですから、しっかりとした健康、生活習慣はやはり口からというのが一番大事ですので、教育の方でも関係してきますけれども、またいずれ時間がありましたら、食育という話もしていきたいと思っています。</p>	

意見④	南下北山村長
<p>先ほど下北山村の現状、取り組み等を報告しましたので、今年実施しようと思ってる事業について紹介をさせていただきます。</p> <p>平成25年度に高齢者日常生活調査というものを行いましたら、下北村山の高齢者の3人に1人が何らかの認知症予防対策が必要であるという結果が出ました。そこで、認知症予防に特化した事業が必要であるという認識を持ちまして、来年度実施していきたいと思っています。</p> <p>認知症というのは、早期に受診をして適正な医療を受けると進みにくいものでございます。しかしながら、下北山村は大変遠隔なところにあり、そういった専門医の方に受診をしてもらうというのはなかなか困難な場所でもございます。ですので、そういった専門医をお招きして1日認知症検診を新年度に実施することで、早期発見、早期治療につなげたいと考えております。</p> <p>もう一つは、高齢者の方は腰痛や、膝痛などを抱えてる方が非常に多いわけです。ですから、高齢者の方が運動機能の維持に努めるような、そういった各種教室を開きまして、高齢者の方の腰痛、膝痛予防も実施していきたいと考えております。</p> <p>私どもの保健師は非常に頑張ってくれています。乳幼児から高齢者まで本当に色々なことを考えて、色々な事業を展開してくれております。少しその保健師の言葉を紹介させていただきたいと思います。「私たちの仕事は村民の皆様幸せな生活のお手伝いです。役場というところは、どうしても申請主義、待ちの姿勢になりますけれども、小さな村ですので、こちらから先に支援を持ちかける気持ちで仕事をしています。」ということをおっしゃってくれました。小さい村だからこそできる、そういった健康づくりを今後も進めていきたいと思っています。</p>	

意見⑤	福西上北山村長
<p>先ほどから荒井知事初め、色々な御説明、御意見を伺いました。我々としても、やはり安心安全で触れ合い助け合いの村づくり、そして同時に思いやりや福祉の心が通うような地域社会の実現をしていく、そういう中で住みよい生活環境を整えるということになろうかと思っております。</p> <p>検診のお話がありましたが、色々検診等がある中で、私は65歳の方々には無料で検診を受けてもらうように言っており、それによって早期発見につながってくると思います。同時に、先ほど荒井知事のお話もありましたが、70歳以上の方が39.2%、女性132人、男性91人、計223人で、女性がやはり多くおられるということでございます。</p> <p>また、要支援の方が22人、要介護1から5までの方が44人、計66の方がおられますが、介護等についても心をこめて行っており、先ほど南下北山村村長が保健師のお話をされましたが、全くそのとおりであると思っています。そういう中で、健康で明るい長寿社会を目指しての村づくりということは重要であると考えたところでございます。</p>	

意見⑥	栗山川上村長
<p>先ほどから私は圧倒的に多い高齢者にまだまだ仕事をしていただきたいと言っており、それに間違いないわけですが、4月に南奈良総合医療センターができます。医療は近代的な医療であるべきだし、治療も専門的な治療を用意するという、これは健康にとって当たり前のことだと思います。それで、私たちが何ができるかという、やはり人として隣同士で助け合う、支え合うことだと思います。そのように、我々の日常の生活はやはりアナログがいいのではないのかなと思います。</p> <p>私はインターネットもパソコンもあまり得意ではないのですが、できるだけ私たちの生活はばたばたして、そういう合理的なものではなくてもよいと思います。できるだけ出会うこと、そして目を見る、顔を見る、そういう形のもので、やはり地域には要ると思います。どう考えても、これから若い人が増えて子供も増えるということはないと思うので、ある意味社会的に弱者が圧倒的に占めていく地域ですが、その中で社会的にそういう支え合うシステムあるいはその仕組みづくりができないのかなと思います。それは本当に地味な形でいいのではないのかなと思います。</p> <p>トータル的には県の力をいただきながら、先ほど言いましたように医療は専門的、近代的であって、そして私達の生活はばたばたした、そういうようなものの方がいいのではないのかなというふうに思っておりまして、引き続いて広い川上村の中でできるだけ出会いを増やせるように、そんな期待を私たちはしていきたいというふうに思います。</p>	

意見⑦	水本東吉野村長
<p>先ほどから何度か出ています南奈良総合医療センターは4月からオープンということですが、現在私どもの東吉野村からその病院に行きますのには乗り換えが何度か必要です。できるだけその新しい病院を活用、利用してもらいたいという思いの中で、直通のバスを走らせたいと考えて計画し、吉野町と大淀町の地域交通活性化協議会の御理解を得ました。東吉野村から朝1便と帰り1便の直通バスを走らせて、できるだけ住民の皆様にご利用していただいて最新の医療を受けてもらいたい、そのように考えております。吉野病院が同じように南和医療提供体制の枠組みの中にありますので、吉野病院を経由して、そして大淀町の南奈良総合医療センターへ行くといったことを考えてやっていきたいと思っております。</p> <p>もう一点、荒井知事をお願いしたいのが、保健師の確保です。保健師の確保というのは大変重要になっております。私どもは、今年採用試験を2回試みまして、2回とも手を挙げてくれる学生がいたのですが、試験の当日にいらっやらないというような状況が続きました。何としても、今現在2人いるのですが、もう1人保健師を確保して住民の健康に努めてまいりたいと思っており、保健師の確保に苦慮しておりますので、また御支援をいただきたいなと思っております。</p>	

意見⑧	奈良県立五條病院 松本院長
<p>病院の方は、病気になられますと受診していただいて、きっちりと診療させていただく、これは当たり前のことでございますけれども、最後のほうで私が申しましたように、やはり病気にならないための生活をいかにしていただくかということで、病院からもしっかりと健康啓発、健康になっていただくための事業をしていきたいということを考えております。例えば肺炎では、肺炎の時はワクチンを打ちましようや、肺炎にならないように口腔ケア、口の中をきれいにしましょう、あるいは骨折を予防するためにはどうするかというような、そういった予防のための講座をしっかりと皆様方に発信していけるように、出前でもやろうというようなことを考えております。</p> <p>また、がんなどについても、特にがんなどにならない生活は大事ですけども、やはり早期診断が大事だと思います。そのような中で検診センターというのがございますので、そこで人間ドック、乳がん検診、子宮がん検診なども行います。また、いわゆる脳ドックというようなのもございます。そういった検診部門も充実いたしまして、できるだけ早期に診断して早期の治療につなげようということも新しい病院では考えておりますので、どうぞ皆様方に御活用いただいたらというふうに思っているところでございます。</p>	

総括	公立大学法人奈良県立大学 伊藤副理事長・学長
<p>まず、県が県内の医療・介護・健康のためのソフト、ハードも含めた整備を多面にわたって着々と進められて形になってきている。それと各首長、自治体の方でも色々な施策を工夫していらっやる。ただ、これも何名かの首長から御意見がありましたけれども、問題なのは住民本人の意識の持ち方で、健康に対する意識をどうやって持つか、それを高めていくか、そのための仕組みが必要ではないかということも御指摘いただきました。まさにそのとおりだと思います。それと、地域の中でつながりというのでしょうか、こういったものがあって初めて色々な効果が生まれてくるんだらうというふうに、皆様の御意見をお聞きしながら考えました。</p>	

【テーマ2】「教育」

<p>挨拶・ 資料説明</p>	<p>荒井奈良県知事</p> <p>資料説明</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・都道府県別、地域別学力の状況(小学生、中学生)</li> <li>・都道府県別、地域別体力の状況(小学生、中学生)</li> <li>・都道府県別、地域別学習意欲の状況(小学生、中学生)</li> <li>・都道府県別、地域別規範意識の状況(小学生、中学生)</li> <li>・「奈良県総合教育会議」、「奈良県教育サミット」の開催</li> <li>・奈良県教育振興大綱(案)抜粋「基本理念と目指す人間像」</li> <li>・規範意識・社会性、体力の向上</li> <li>・キャリア教育の充実</li> <li>・奈良らしい就学前教育の検討</li> <li>・奈良県立大学シニアカレッジの開講 など</li> </ul>
<p>取組説明 ①</p>	<p>北岡吉野町長</p> <p>吉野町の現状と行政の取り組みについて説明</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・認定こども園が開園、小学校の運動場の芝生化</li> <li>・自作の手すき和紙による卒業証書の作成や全校児童での吉野山の桜の見学</li> <li>・中学校生徒による吉野山案内学習などのふるさとを知る・学ぶ教育の実施</li> <li>・生産者との交流等などによる食育の実施</li> <li>・中学校の机の天板を自作し、卒業時に持ち帰るなどの木育の実施</li> </ul>
<p>取組説明 ②</p>	<p>岡下大淀町長</p> <p>大淀町の現状と行政の取り組みについて説明</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町内教育施設の整備</li> <li>・ウッドデッキの設置や太陽光発電の導入、トイレの洋式化などの校舎の改築の実施、最新設備による自校方式の給食</li> <li>・小学校での能楽体験などによる文化教育、郷土愛を育む教育の実施 など</li> </ul>
<p>取組説明 ③</p>	<p>南下北山村長</p> <p>下北山村の現状と行政の取り組みについて説明</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・上下交流陸上記録会や合同校外学習、スポーツ教室など近隣村との交流を実施</li> <li>・小学校において、英語教室や書道教室などの放課後の子供教室を実施</li> <li>・学校と地域が連携した学校支援ボランティア活動「学校応援団」を立ち上げ、環境美化やベルマーク収集、学習支援などのボランティア活動を実施</li> <li>・大学院生が指導者となり、下北山村の川や山での自然体験学習や勉強をしながら、家庭や学校生活で子供が抱える様々な悩みに対し相談に乗る寺子屋事業を実施 など</li> </ul>
<p>取組説明 ④</p>	<p>福西上北山村長</p> <p>上北山村の現状と行政の取り組みについて説明</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育園から中学校への連続性を意識した子供の成長を目指しており、平成26年度から県内で初めて施設一体型の小・中一貫教育を開始</li> <li>・中学生全員を対象にしたオーストラリア約10日間のホームステイなどの国際化学習を実施 など</li> </ul>
<p>取組説明 ⑤</p>	<p>栗山川上村長</p> <p>川上村の現状と行政の取り組みについて説明</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・9年間の教育を目指して、児童生徒の個性を生かすため個人カルテを作成し、小・中学校の教育連携を推進。</li> <li>・読書タイムや全校スピーチ、英語教育、大規模校との交流などを実施するとともに、水源地の村であることを踏まえて環境学習を実施</li> <li>・保育園と小学校と中学校の校舎の一元化に現在取り組んでいるところ など</li> </ul>

取組説明 ⑥	水本東吉野村長
	東吉野村の現状と行政の取り組みについて説明 <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園に保育園を併設し、こども園を開園</li> <li>・こども園、小学校、中学校の連携を図りながら、それぞれの園、学校で取組を実施</li> <li>・近隣村の保育園・こども園との保育の交流を実施</li> <li>・小学校において、体育及び全校運動で体力向上を目指す「ひよトレ」や高見山雪中登山、俳句活動、森林教育、川上村の小学校と共同でのICTを活用した授業などを実施</li> <li>・中学校において、スキー教室などの体験学習やリーダー研修、高見山の清掃活動、インターネットでサンフランシスコとつなげるICT活用授業などを実施</li> </ul>

取組等 説明	京都大学 大学院教育学研究科・教育学部 高見教授
	テーマ「教育」について取り組み等説明 <ul style="list-style-type: none"> <li>・修学前教育の振興のあり方の検討(奈良県とのコラボレーション)</li> <li>・就学前教育の必要性－非認知的能力の発達時期</li> <li>・ハイスコープベリ－修学前教育プロジェクト(米国)</li> <li>・修学前教育の重要性－公財政節約の手立て</li> </ul>

意見①	荒井奈良県知事
	<p>高見先生から就学前教育がとても大事だとおっしゃっていただきました。先ほど私が報告いたしましたのは、義務教育のレベルのパフォーマンスのランキングということでございまして、義務教育のレベルで体力にしろ、規範意識にしろ、学習意欲にしろ、発達が遅れているか進んでいるかでございます。幼稚園に続く小学校、小1ショックというものがありまして、幼稚園から小学校に続く段階がうまく接続されているかという制度的なこともあります。就学前の時にきちんと家庭にしる幼稚園にしる、教育されているかということがとても大事だということがわかってきております。</p> <p>それは神経の発達と関係していて、就学前が神経が一番発達する時期であることがわかっています。その時に神経の発達を促しておく、神経の伝達力が良くなるらしいです。神経の伝達力が良くなるということは、統合能力が良くなることとなります。先ほど南下北山村長がおっしゃったようなコミュニケーション能力というのは、発表の視覚化をロジカルにする、自分の意思を明確に認知することが必要です。この認知というのは、先ほど高見先生がおっしゃった非認知能力になります。自分の考え方が自分でわかるというのがとても大事なことです。そうでないと自分の意思を発表できない。その発表の仕方はロジックで人にわかるように発表する、また、その場で発表する時には、何をその場で求められているのかを感知するといった極めて人間社会で基本的な能力は、就学前、乳幼児期に発達するということがわかってきております。日本の教育課程には、それをどう鍛えるかという教育要綱が全くありません。全くない。それをどのように開発して定着するか。奈良県でそういうことができればいいなというふうに思います。</p> <p>先ほどの義務教育の色々なハンディが吹っ飛ばすような就学前の教育メソッドが確立できたらと思います。そのような就学前教育にはお金もかかりますが、大事だということを首長とできるだけ共有して、その時期の教育に力を入れていきたいと思います。幼稚園・保育園には公立と私立があります。待機児童の解消などが主たる目的で私立が多いですが、認定こども園で力を入れて、就学前の教育の質を高めると、奈良県も力を入れていきたいと思っております。</p> <p>また、発達障害という病気がありますが、就学前の教育に力を入れると、発達障害が神経の発達で緩和されるということもわかってきております。例えば就学前教育でバイオリンを習うと、バイオリンは右手、左手、目、耳を全部使いますので、神経の発達がとても促されます。ハイスコープベリ－の実験もバイオリンを使ったのではないかと思いますが、それ使った人と使わない人の後の知能の伸びが違うというふうにも出ております。音楽教育とも関係いたしますが、この辺りの研究と実践を奈良県でできたらと思っております。ぜひ首長の皆様、また地域の皆様方の御理解を賜りたいと思う分野でございます。</p>

意見②	北岡吉野町長
	<p>性格が形成されるのは3歳までで、6歳でほぼ固まると聞いたことがあって、そのとおりだなと思っています。先ほど認定こども園開園について申し上げましたが、行政の都合で合併するのではなく、どのような保育・教育の内容を提供できるかを保護者に伝える事が第一であると感じました。幼稚園と保育所の内容が予想以上に違いもあり反省もしています。今回の認定こども園はやや保育所寄りになったような感じですが、今後もその内容の充実を図ることが大切だと感じています。併せて保護者への教育が非常に大事だと思っており、いろんな相談に対応できるようカウンセラーを配置したり、子育てグループへの支援なども行ってきているところです。また、教育現場では、特別に支援を要する子どもの増加や、保護者の職業の関係上、外国籍の子どもたちが共に学んでいますが、文化や言語の違いがありなかなか厳しい現状です。</p> <p>一方、先ほど触れませんでした。幼・小・中施設一体とはいきませんが、英語やIT教育、情緒教育など、一貫した教育をどのように進めるか無駄のない流れを作っていきたいと考えています。</p>

意見③	岡下大淀町長
<p>就学前教育については、私は本当に何年も前から申しております。といいますが、食育基本法ができました。その時に、教育の中での知育、徳育、体育、この3つの基礎となるもので、大事なものが食育であると思いました。その食育というのは、こういうものを食べたら体にいいとかそういうものではありません。これを就学前教育、3歳児まで、あるいは5歳児までの子供にする。子供にするためにその親にきちんとする必要があります。</p> <p>私は歯医者もしております、健診をした時に、子供、親御さんにこの話をいたしました。どういう話かといいますが、食育の話。人間というものは万物の霊長と言いますが、命の大切さ、人間は生きて生まれてから自分の命をまず大切にしなければならない。命は全ての命をもらって生きている。食物には全て命があるのです。その命をもらって生きていく。それが食育です。それをしっかりと就学前の子供に教えれば、規範意識もしっかりとついてくるはずで。命が大事、その他の人間以外の命をもらって生きてるといふことは、それだけ全ての社会、あるいは全てのものに感謝をしなければならない。そういうことをしっかりと教えれば、規範意識もしっかりとした生活習慣ができますし、それがしっかりとすれば小学校に来てからの色々な教育などもできると思います。そういう教育をぜひしていけばと思います。これが一番就学前教育の基本であろうかと私は考えております。</p>	

意見④	南下北山村長
<p>私も、教育が一番大事だというふうに思っております。先ほど言いましたように、下北山村は年々、児童生徒数、子供の人数が減少しているのですが、子供の人数が減少しても、少ないからこそ一人一人と向き合って密度の濃い教育ができるというふうに思っています。ですから、下北山村ではそういった教育を進めていきたいというふうに思っています。</p> <p>高見先生のお話で、就学前教育の重要性をお聞きしました。本当に私もそう思います。けども、実際どういふふうにして具体的に進めていったらいいんだろうということがありますので、荒井知事もおっしゃったように、教育メソッドの確立をぜひしていただいで、我々に御教示いただければありがたいと思います。</p> <p>それと、教育の中で私が考えておりますのは、少ないからこそできる教育があるということです。先ほど福西上北山村長から中学生がホームステイに行ってきたというお話をお聞きしました。上北山村の教育委員会の方に子供たちの印象はどうでしたとお聞きしましたら、子供たちが変わったと言われていました。下北山村でもぜひホームステイをやりたいと思っています。これは少ないからこそできることではないかというふうに思っております。これからの世界はやはりグローバルな社会になってきますし、今インバウンドでどんどん外国人の方が日本にお見えになっております。やはり外国語はこれから絶対必要だといふふうに思っており、これから外国語教育に力を入れていきたいなというふうに思っております。</p> <p>それと、下北山村は少し遠隔にありますので、なかなか交流をしようと思っても時間がかかります。どうしてもそういう物理的な距離というのは解消しようがない。そこで、これも先ほど少しお話が出ておりましたが、ICTを活用した教育、他の学校との交流がICTを活用してできるのではないかと考えておりますので、こういったことにも今後力を入れていきたいと思っております。</p>	

意見⑤	福西上北山村長
<p>上北山村は児童生徒数が少ないということもあって、子育て世代の負担を軽減するという意味で、給食代、医療費、スクールバスのバス代等全部無料としております。同時に、1歳児から5歳児までが5人しかいませんので、保育料も無料化しております。</p> <p>そういう中で、岡下大淀町長さんも申しておられましたが、子供たちには知、徳、体を基本とした教育を進めることが重要であるかと思っております。また、先ほども申し上げましたように、小・中の一貫教育、その一貫教育の成果と充実は、全ての先生方を初め保護者とも連帯して向上させなければならない大きな課題であると思っております。</p>	



意見⑥	栗山川上村長
<p>高見先生の三つ子の魂百までというお話を聞いて、本当はそのことが最も大事なかなというふうに思っております。改めて子どもも我々も勉強が大事だなと思っています。その上で、単純には語れませんが、やはり魅力、学校の魅力は何か、地域の魅力は何か、そして自分の魅力は何なのか、自分の持ち味が何なのかということをしっかり学ぶ教育が大事かなと思います。そういう意味では、毎日毎日大人が田舎が悪いとか、山が悪いと言う話をしていると、それを聞いた子どもがこの村に残るのかな、ということが私の疑問でもあります。もう一度地域の良さ、東京にはないもの、田舎は何か良いのか、何がよそと違うのか、それから、自分の持ち味が何なのかをしっかりと身につけるといことと、そのことをしっかり人に、第三者に話をする、伝えるということが大事だというふうに思います。</p> <p>川上村の小学生、中学生は少ないですが、年に1回小学生の場合は「かみせタイム学習会」ということで、ここ「やまぶきホール」で発表をします。また、中学生は「紅葉祭」ということで、この会場で話をします。先ほど荒井知事も言われたように、人に自分の思いをしっかりと伝えるということが大事でありますし、そして、相手にそのことを理解してもらおうということが大事です。そのことを小さな学校でも、田舎の学校でもきちっと身につければ、200人の学校へ行こうと、1,000人の学校へ行こうと、全く見劣りはしないというふうに私は思います。子供とその親がそのことを理解してやっていくということが、たくさん大事なことがある中でも、一番大事なことではないのかなと私は思いますので、引き続き先生をしっかりサポートしたいというふうに思います。</p>	

意見⑦	水本東吉野村長
<p>東吉野村は今、都会の若者、クリエイターと呼ばれる若者を村へ呼び込むことをやっている中で、その一つとして教育の面でも何か魅力をつけて、若者に来てもらいたいという思いで進めているところで、ICTを活用した魅力づくりや英語教育について、学校でもやってもらっておりますが、村としても何かそういったものを手助けしたり、単独で実施するなど、色々行うことで教育で魅力をつけて、そして村へ若者を呼び込んで、子供たちを増やしていきたい。そんな思いでやっております。</p> <p>統計になりますが、こども園から中学校までの子供が現在96名いるのですが、5年先には子供たちが減っていった学校運営もできない状況になる中で、3名が毎年出生してくれることによって、70名ぐらいが維持できるのではないかという推移的なことも出ておりますので、そういうことをできるだけやって、子供の数を増やしていきたいと、そんな思いで教育の面でも力を入れていきたいと思っております。</p>	

意見⑧	京都大学 大学院教育学研究科・教育学部 高見教授
	<p>今回の首長さんのお話は4点ぐらいにまとめられるのではないかと思います。まず学校間交流。これは横の連携です。いわゆる統廃合も含めまして、こういう学校間連携、他の学校と交流をすればいい。それから、一貫教育・連携教育です。それから、地域に根差した地域の教育リソースと資源を活用した教育、伝統文化の継承、発展をそれぞれ考えていく必要があるということ。これはいずれも教育基本法の本質にのっとった教育を進めておられるということです。私は、基本的には正しい方向での教育政策をきっちり展開していってほしいというふうに評価できると思います。</p> <p>では、なぜこういうことを今やる必要があるのかというと、世界が激変してるからです。20年前の世界、90年代の日本は半導体産業で世界をリードしていました。だから、当時、京都大学もそうですが、工学部の情報工学科の卒業生の一番優秀な学生は半導体メーカーに皆行っていました。ところが、現在そこは全部壊滅状態になっておりまして、唯一、エルピーダメモリという会社が残っていたのですが、これも米国系の企業に吸収されてしまい、マイクロン・テクノロジーの傘下になりました。</p> <p>そうすると、技術者はどうしているのかというと、後発の韓国、台湾へ技術者としてヘッドハンティングで行ってしまい、自分が持っている技術だけ吸収されるとお払い箱という形になります。企業に残った人も雇用保蔵という形で企業には残れますが、自分の専門を生かした仕事はできなくなります。そして、下手をしますと、主要家電のメーカーもばたばた倒れます。サンヨーやシャープがおかしくなっています。東芝もそうです。これが今の現状でありまして、いずれにしても20年前に高等教育で獲得した技術が既に役に立たないという状況になってます。</p> <p>では、日本は失われた20年、バブルが崩壊してから非常に厳しい状況でしたが、この20年ほどで世界はどう変わっているかということ象徴するのがドバイです。1991年のドバイは、砂漠でほとんど何もありませんでしたが、今世界の富がここに集まっています。10年ほど前のドバイは、ビルが建ってきて街らしい雰囲気になってきた程度でしたが、現在は眠らない街になっています。ものすごく近代的な街になっています。それぐらい変わっています。</p> <p>では、こういった世界が動いていく時代に、我々が生き残っていくためにはどうしたらいいかです。いわゆる従来のように、40年近く勤め上げる環境は消滅してしまいました。だから、変化に備える能力を育成していく必要があるということで、そのためには2つの能力を育成する必要があります。一つは、変化に備えて学び直すことができる能力です。もう一つは、必要な変化への適応能力です。そのためには思考力、判断力、表現力をきちんと獲得する必要があります。これが非常に大事なことになると思っています。</p> <p>では、どうしたらこのようなスキルが身につくかです。変化に備えて学び直すことのできる能力というのはやはり読書力です。これをまずきちんと身につけることによって、学び続けることのできる能力が形成されます。また、必要な変化への適応能力というのは、ICTの活用です。先ほどから首長のお話の中にもそれに力を入れるというお話がございました。もう一つはコミュニケーション力、英語力、これも力を入れるというお話がございました。</p> <p>それからもう一つ、これも首長のお話の中に出てきましたが、地域の伝統文化です。これを大切に教えるということをおっしゃいました。これが極めて重要な要素です。英語教育だけをやって英語の力だけつけても、国際的には通用しません。自分の国の伝統文化や歴史をしっかりと学んで、英語で発信できないとだめです。こういう郡部の山間部のところには伝統芸能が残っていますから、日本の伝統文化を学ぶことのできる素晴らしい環境が残っていると思います。だから、国際的に活躍したくても、一時的にはこういうところで日本を学ぶことが、子供たちにとっては極めて必要なことになると私は考えております。</p> <p>今の若い人、例えば京都大学の理科系の学生などはマスターぐらいで外国へ出ていきます。学会発表で自分の専門のことは英語で説明できますが、学会というのは発表だけではなくて、夕食会や昼食会などを行い、そこで打ち解けて情報交換をします。その時に、なかなか場の中へ入っていけない。伝統や文化、歴史、哲学こういう話になると、全くついていけません。これはやはりそういう教育をしっかりと受けていないからです。本日こちらにいらっしゃる首長の自治体では、そういう伝統文化がまだ残っています。素晴らしい教育シーズが残っていますから、こういう環境を活かして学んでいただくような環境づくりをしていただきたいというふうに思っております。</p> <p>それ以外にも、ふるさと教育というのはまさに伝統文化に関わりますし、もう一つは、親の取り込みというお話もございました。私どもの研究チームは奈良県と一緒にこれから新年度に向けて研究を進めてまいります。親をどういう形で教育にコミットさせるか、参加させるか、これを考えている専門家もチームのメンバーに入れるつもりです。実際、親が教育、学校教育に関わるか関わらないかで、子供の成績は明らかに違います。これは、日本における実証実験の結果、データが出てきています。ですから、そういうことも含めた上でのプログラムを構築します。先ほどきちんとしたコンテンツを作ってくださいというお話がございましたので、責任の重さを感じております。しっかり頑張りたいと思います。</p>

総括	公立大学法人奈良県立大学 伊藤副理事長・学長
	<p>各自治体の取組、もちろん県の取組も含めて、各首長のお言葉の中に、教育は重要であるということ絶対であり、全くなたも異論はないということだと思います。今日は学校教育が中心でしたが、高見先生のお話は就学前教育で、当然そこには家庭などの話もありますし、地域で育てる、教育するという地域社会の教育の問題もあります。そういうことを通じて、要は教育というのは教育を受けた一人一人の人生の課題にも影響してきますし、結果それが社会の課題にも影響してくると思います。そういう意味で、教育というのは非常に重要なテーマ、課題であるということが今日確認できたと思います。今後は、一人一人が学び続けられるような環境をいかに作っていくかということが重要かと思っています。</p>